

ジュニア女子サーブルワールドカップ（セゴビア大会）審判活動報告

報告者 FJE 審判委員会 佐藤秀明

帯同審判員とし表記大会に参加しましたので、審判活動について報告いたします。

1. 日程及び会場

日程：2018年1月20日～21日

※20日：個人戦、21日：チーム戦

会場： Pabellón Polideportivo “Pedro Delgado”
Segovia Academia de Artillería de Segovia

個人～T8、チーム戦
個人 Semi Final～Final



会場正面



試合会場全体



試合会場 (Final)

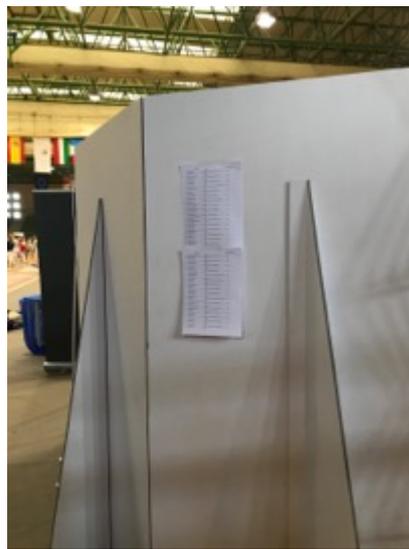
2. 審判活動

レフリーミーティング について

審判員の点呼後、審判員長であるスペインの Jose 氏から、「髪の毛」、「プール戦にはコーチは入れない」、「プール戦開始時に用具チェックを済ませる」等の基本的な注意点と、「“アレ（始め）”の前の静止と動いた場合の罰則」について丁寧な説明があった。審判員待機場所（控え場所）は DT の横にパイプ椅子が並べられ、そこ以外での休憩場所はなく、強制的に審判員同士がコミュニケーションをとらざるを得ない雰囲気であった。私にとっては居心地がいいとは言えない環境であった。



審判員待機場所



審判割当表（バックヤード）

1日目（1月20日）

プール戦は 2 ラウンドとトーナメントは 5 試合を担当した。プール戦 1 ラウンド目はスペインの Vallejo 氏と、2 ラウンド目はスペインの Chichon 氏と担当した。判定はスムーズに行えたが、Vallejo 氏からは「プレ、アレ！」について、「プレ」を強調しすぎることで、選手に緊張が生まれ、静止状態の維持が難しく、フライングを誘発してしまうので、「プレ」の号令は抑え気味に発声するようにとのアドバイスをもらった。1 ラウンド終了後に Jose 氏から「サリューをさせないとダメだ」とのコメントをもらい、試合をコントロールできていないとの指摘を受けた。

トーナメントに入り、T128 を 3 試合、T64 を 2 試合の計 5 試合の審判を行った。難しい判定はなかったものの、プール戦とは異なりコーチからのプレッシャーを感じながらの審判は少し動揺する場面もあった。残念ながら、T32 以降の試合に入ることができなかった。自身では判定に特に問題がないと考えているが、小さなミスがあったのだろうと反省し、以降

の試合について勉強を兼ねて見学した。

個人戦のセミファイナル開始までの間、イベロアメリカ（旧スペイン領）という枠で今大会に出場した選手たちのトーナメントが行われていた。スペイン語を公用語とする国々の交流戦にはとてもよい刺激を受けた。みんなでフェンシングを楽しむという雰囲気があった。決勝戦は別会場で開催され、折角の機会なので勉強も兼ねて観戦に行ってきた。決勝戦は全員スペインの審判員…。Vallejo 氏と他はかなり若手の審判員で、少し悔しさがあった。試合終了後に帰ろうとしたところ、審判員長の Jose 氏に「打ち上げに参加しなさい」と呼び止められ、そのままスペイン関係者の会に参加させていただいた。

2日目（1月21日）

チーム戦は、個人戦で早々と終わってしまったこともあり、少し力みがあったように感じる。T16 を SIRITEANU 氏（ROU）と組んだ。同氏から、「9 試合のうち、中の 3 試合を頼む」と伝えられ、素直に聞き入れてしまったが、後になって考えると貴重な機会を逃してしまったと後悔が残った。残念ながら、T16 以降はトーナメント上位の試合ではなく、予備選及び下位順位決定戦審判を行った。高い評価を得ようと力んだこともあり、回数を重ねるごとに判定にブレが生じてきたと自覚する場面も少なくなかった。特に、「アタック」と「アタック・ノン、アタック」の判定についてそれが多くあったように感じる。他の試合で審判をしていたロシア人審判員の判定にブレが多く、ドイツチームのコーチから DT にクレームがあった。その後彼が審判に入ることがなかったのが印象的であった。

3. 全体を通して

プール戦で組んだ、Vallejo 氏と Chichon 氏は、2 人とも多くの国際大会での審判キャリアを持っていることもあり、恐らくワールドカップの審判を初めて経験する私の教育係だったのではないかと推測する。防具や武器のチェック、対戦記録の書き方など、当たり前の審判業務を丁寧に示してくれた。国際審判員ライセンスは保有しているが、まだまだ駆け出しの審判員への教育と考える。他国の審判とのコミュニケーションは、U23AFC 時の反省を生かし、できるだけ積極的に行った。語学力不足は否めないが、自分の考えや疑問点等は伝えることはできなのではないかと思う。

ジュニアカテゴリーでは当たり前のことなのか知り得ないが、前日までコーチをしていた人が団体戦には審判として参加する大会であった。審判員としての彼らは非常に交友的で、この機会に他国のコーチとの接点を持つことができた。自分に対する評価よりも、目の前の試合を正確に判定することの積み重ねが何よりも優先すべきことという

最終日には、審判委員長から「いい審判員になるためには、沢山の練習と実践経験を持つことだ。しっかりと頑張りなさい。また会いましょう」というコメントをいただいた。当た

り前の内容ではあるが、遠い異国の地において不安を抱えて臨んだ試合であったこともあり、改めて自分の未熟さと今後ますますの努力をしなければならないと感じた。

今回の派遣は私にとって、大変多くの刺激を得る機会となった。この経験を次に生かしていければと思う。

最後に、本大会は派遣について私の希望を受けて送り出していただいた FJE 審判委員会の皆様と、渡航手続きや大会組織委員会と連絡を取り合っていたいただいた NF スタッフの方々にはこの場を借りて感謝いたします。ありがとうございました。

以上



日本チームと集合写真

※撮影者 草薙コーチ



審判員集合写真